

富士河口湖町教育センターだより

学習体験プログラム

NO.34 平成21年11月発行



9月から10月にかけて、町内の全小学校5年生を対象に、『川の学習』を実施しました。桂川の支流の鹿留川の上流・中流・下流の様子を観察・体験してきました。川のない富士河口湖町の子ども達にとって、川的一端を知る貴重な経験になりました。『切って切ってトントントン』には大石小3年生が参加し、のこぎりやかなづちを使って、力作を仕上げました。みな満足気でした。



台風の影響で、9月後半に予定していた学校が延期となり、最終の学校は10月29日の実施となってしまいました。川の水は冷たく、「痛い、痛い」と声があがりました。それでも、水しぶきをあびる顔は明るく輝いて、生の体験の大切さをひしと感じました。特別研究員の東先生・小河原先生には、全行程で指導をしていただきました。



参加者の声

流れの強さの実験で、バケツにつないだひもを持ちました。ものすごく強くて、驚きました。実験後、バケツがポコポコになりました。川の内側と外側で、水の温度が違うのに、びっくりしました。

はっぱを流したら、外側の方がどんどん流れていきました。川に入ったのは初めてだったので、最初は緊張しました。川は楽しいけど、危険なときがある。